

社長メッセージ



代表取締役社長／社長執行役員
島田 紘一郎

ニッチ市場でのグローバルNo.1をめざして、 技術融合を武器に、 スピーディーに戦略を実行していきます。

2009年5月期(2008年度)の業績は、事業によって二極分化しました。

日本化薬のビジネスの特長は、ファインケミカル技術をコアとして、成長分野を「情報通信分野・省エネルギー関連分野」「医療分野」「安全分野」に定め、多岐にわたる事業を展開している点にあります。2009年5月期の決算は世界的な経済危機の影響により、残念ながら減収・減益となりました。売上高1,343億5千3百万円(対前期7.3%減)、営業利益93億6千7百万円(対前期24.8%減)、当期純利益37億1千8百万円(対前期43.9%減)という結果でした。当期の特徴は、各事業の業績が二極分化したことです。抗がん剤に特化した「医薬事業」と、農薬などの製造・販売を行う「アグロ事業」は、対前期比増収・増益となりました。しかし、半導体、デジタル家電、自動車など、世界同時不況の影響が大きい産業分野に製品を提供している「機能化学品事業」「セイフティシステムズ事業」は、減収・減益となりました。

景気回復に伴い、ビジネス環境は大きく変わると認識しています。

現在、世界同時不況は回復基調にあるものの、これは異常な不況から正常な不況への回復に過ぎないと見えています。本格的な景気回復は来期以降まで待たなければならないと予想しています。今回の不況は短期的なものではありません。戦後以来の世界経済の構造変革に伴い、米国型の経済が行き詰まったことによるものです。景気回復時期以上に重要なのは、回復後のビジネス環境が大きく変化せざるを得ないということです。

1つめの変化は、エネルギー大量消費型社会から、省エネルギー、省資源、環境対応型社会への転換です。この転換は従来から志向されてきましたが、今回の世界同時不況を契機に急激に加速されます。2つめの変化は、低コスト社会です。今後の経済成長の中心は新興国になるため、新興国の需要に合うような低コスト製品を中心とした成長になります。従って、極端な技術偏重型商品からコストメリット重視の商品に変わります。私たちは、すでにこうした変化に対応すべく行動を開始しています。

2010年5月期(2009年度)は、環境・省エネルギー分野の技術開発を加速します。

従来、日本化薬はローリング方式で中期計画を策定していましたが、2011年5月期から2013年5月期までの3年間は、数値目標を固定化した中期計画に取り組みます。これにより、責任を明確にし、計画の達成に邁進していきます。中期計画の目標としては、2013年5月期にROE10%を達成したいと考えています。ROE10%は、継続的に発展していくグローバルな企業としてのスタート目標と考えています。2010年5月期は単期で予算を組み、経済情勢、市場動向を見極めつつ、1年かけて中期計画を策定していきます。

「情報通信分野・省エネルギー関連分野」については、重点を「環境・省エネルギー分野」へと移し、加速させていきます。半導体封止材用エポキシ樹脂に関しては、環境対応型のNC-3000が、ハイエンド商品としてデファクトスタンダードとしての地位を築いています。また、当社の保有する樹脂技術と触媒技術の技術融合から生まれた「脂環式エポキシ樹脂」は、次世代の省エネルギー照明として期待されるLED用の封止材用途に今期から市場投入する予定です。さらに、当社の保有する色素技術と樹脂技術の融合から生まれた「色素増感太陽電池」は、今期中には試作品のサンプルワークを開始する予定です。

「医療分野」では、ナノテクノロジーを駆使したドラッグデリバリーシステム(DDS)製剤である高分子ミセル化抗がん剤の開発を加速させるため、引き続き積極的に投資していきます。日米で開発しているNK012(カンプトテシン類内包製剤)はアメリカで乳がんおよび肺がん領域を対象にフェーズⅡが進行しています。また、国内では大腸がんを対象としたフェーズⅡが開始されており、症例のエントリーを積極的に進めていきます。また、NK105(パクリタキセル内包製剤)は国内でのフェーズⅡを早期に終え、新たなステージへ移行するよう準備を進めて参ります。また、抗がん剤関連のワンストップサービスの拡充を推進すべく、ジェネリック抗がん剤の上市も積極的に行い、更なる抗がん剤ラインナップの充実を図っていきます。

「安全分野」では、エアバッグ用インフレーターおよびシートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータの新製品をグローバルに展開することで事業拡大を図ります。

一方、不採算品や競争力を確保できない製品を整理すると同時に、固定費にも大胆にメスを入れ見直していきます。

ニッチ市場でのオンリーワンをめざし、危機を乗り越けていきます。

日本化薬は、2016年に創業100周年を迎えます。私たちは、常に「変化する遺伝子」を持ち、社会や市場の変化に応じた技術革新を起こし、それぞれの時代のニーズに合った最良の製品を提供してきました。今の時代は、世界的な経済危機の時代として後世に記録されることでしょう。私たちは、この変化する遺伝子を活かし、私たちの保有する多様な技術を社内外で融合することにより、独創的な先端技術で新たな価値を生み出し、この危機を乗り越けていきます。私たちは、ニッチな市場で、グローバルにビジネスを展開し、最良の製品を提供していくことで、オンリーワンをめざします。新しい企業スローガン「世界的すきま発想。」には、こういった思いが込められています。

最良の製品を提供することで、社会的責任を果たしていきます。

最良の製品とは、お客さまにとって最良であるだけでなく、社会や環境にとっても、また事業を運営する社員にとっても最良であることを意味しています。私たちは、新たな視点や発想をもち、最良の製品を提供し、企業価値を高めていくために、お客さま、地域社会、社員、そして株主・投資家の皆さまの声に耳を傾けていきます。

日本化薬グループは一丸となって、「最良の製品を、技術革新と従業員の良心の総和により、社会に提供し続けること」というCSR理念に基づき、社会の発展に貢献していきます。また、「安全操業」「環境対応」「コンプライアンス」を最重要キーワードとして、社会から求められる責任を果たしていきます。今後とも皆さまから尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年10月1日

鳥田 紘一郎